

球磨村長に辞職勧告

議会可決「不誠実な言動 行政停滞」

球磨村議会（定数10、欠員1）は定例会最終日の20日、「不誠実な言動などが村政の停滞を招いた」として、松谷浩一（こういち）村長と上藤（かみふじ）宏（ひろ）副村長に対する辞職勧告決議案を賛成7、反対1の賛成多数で可決した。決議に法的拘束力はなく、両氏は進退について「まだ定まっていな」とした。村議会事務局によると、村長と副村長への辞職勧告決議案の可決は、いずれも初めて。

田代利一（りっいち）氏（村議7人）が提出。田代氏は「村長の不誠実な対応と資質を欠く発言により、議会と職員らに混乱を招いた」と指摘。「このままでは行政が停滞する」とした。上藤氏について

では「職員の事務執行を統括するという職責を果たせていない」とした。

松谷氏は議案終了後、報道陣に「決議は重く受け止めている。（2020年熊本豪雨の）復興を爾々と進

めてきたが、議会からは停滞していると判断されてしまった」と話した。進退については「24日にある定例の議長会で表明する」とした。上藤氏は「村長と進退を共にする」と語った。定例会では初日の17日、議会側が、村職員を批判したと受け止められる松谷氏の発言を問題視。松谷氏に対して開会前に釈明の記者会見を要求し、開会時刻が約3時間半遅れる異例の事態となった。



辞職勧告決議案の可決を受け、記者の質問に答える松谷浩一村長＝20日、球磨村

球磨村議会が20日、松谷浩一村長に対する辞職勧告決議案を可決した背景には、反村長派が多数を占める議会と松谷氏の、村政の重要課題を巡る積年の対立がある。議会側は今定例会で問題化した、村職員を批判したと受け止められる松谷氏の発言をきっかけに、松谷氏へ「最後通告」を突き付けた形だ。

「村政運営に改善がみられなければ、次は不信任決議案を出すことになる」。辞職勧告決議案を提出した議員の一人は、そう明言した。今回の採決結果は賛成7、反対1。仮に不信任決議案を提出していれば、賛成は可決に必要な出席議員の4分の3を上回っており、松谷氏は辞

職か議会の解散を促すことができた。

松谷氏は2020年熊本豪雨の4カ月前に初当選し、現在2期目。当初から議会と対立が続いていた。

豪雨被害を契機とした義務教育学校の設立では、松谷氏は人口が多い渡地区を、議会側は村中心部の一勝地区を設置場所として主張。23年、議会は村が提出した、渡地区に校舎を設置するための費用を含む予算案を否決した。結局、場所は一勝地区に決まった。

昨年冬以降、村施設の管理や地域づくりを担っていた指定管理団体や一般社団法人の契約打ち切りが相次いだ。議員からは

就任当初から対立「最後通告」

従業員の雇用や委託料の支払いに、松谷氏の対応を疑問視する声が上がっていた。

対立構図が続く中、松谷氏が他の首長や村民との会合で「役場の職員は分かん」と発言していたことが判明し、議会側が問題視。今定例会初日の17日、松谷氏に記者会見を要求し、開会が約3時間半遅れる異例の事態を招いた。

松谷氏は辞職勧告決議を受け「身の振り方は後援会などと相談して決める」と述べた。議員の一人は「村長と職員との間の溝が浮き彫りとなり、看過できなかつた。議決をしっかりと受け止め、考えてほしい」。傍聴した村民の男性（77）は「復興が大切な時期に村長と職員の間に溝があるならば心配。松谷氏は村長を続けるなら、大いに反省して職員の信頼回復に務めてもらいたい」と話した。

（金村貴太、東寛明）

松谷氏は20年3月に初当選。24年に再選を果たした。
（金村貴太）